



山形大学
Yamagata University

山形大学における EMIRの実践事例

報告者： 浅野 茂

山形大学 学術研究院・教授

平成28年度 大学マネジメントセミナー「国立大学のIR戦略」
2016年11月18日 @ 学術総合センター

本日の報告内容

1. 山形大学におけるEMIRの位置づけ
2. 総合的學生情報分析システムの概要
3. EMIRの実践事例
4. まとめ

EMの定義

IR!

科学的マーケティング手法による大学マネジメント・サイクル

EMは、**大学調査**などによって支えられ、**戦略的なプランニング**によって組織され、
学生の大学選択、大学入学、
在学中の教育サービス、休学・退学の阻止、
(卒業後も含めた) 学生の将来などに関わる支援諸活動を
総合的にマネジメントすること。

「大学調査」とは、機関別認証評価、国立大学法人評価等、公開を前提とする調査ではなく、大学の課題発見、課題解決に資するための調査のことで、公開を前提としないものも多く含む。

学生の「ため」に考えるのではなく、
学生の「立場になって」考える姿勢を貫く



そのためには、分析的な視点で学生を捉える

そのためには、会議で学生のニーズを決めない

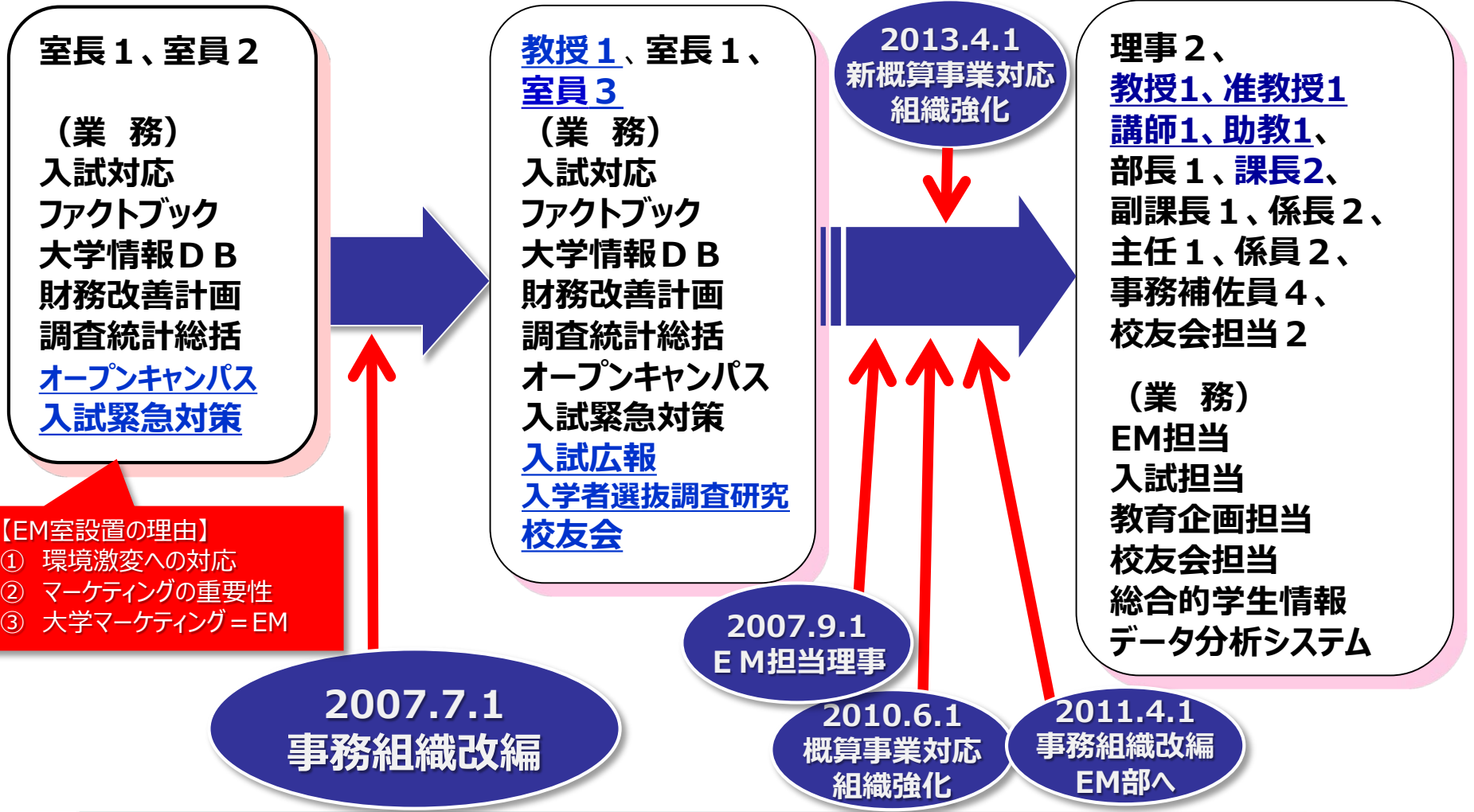
そのためには、学生をわかったつもりで議論しない

そのためには、学生を知ることを決してあきらめない

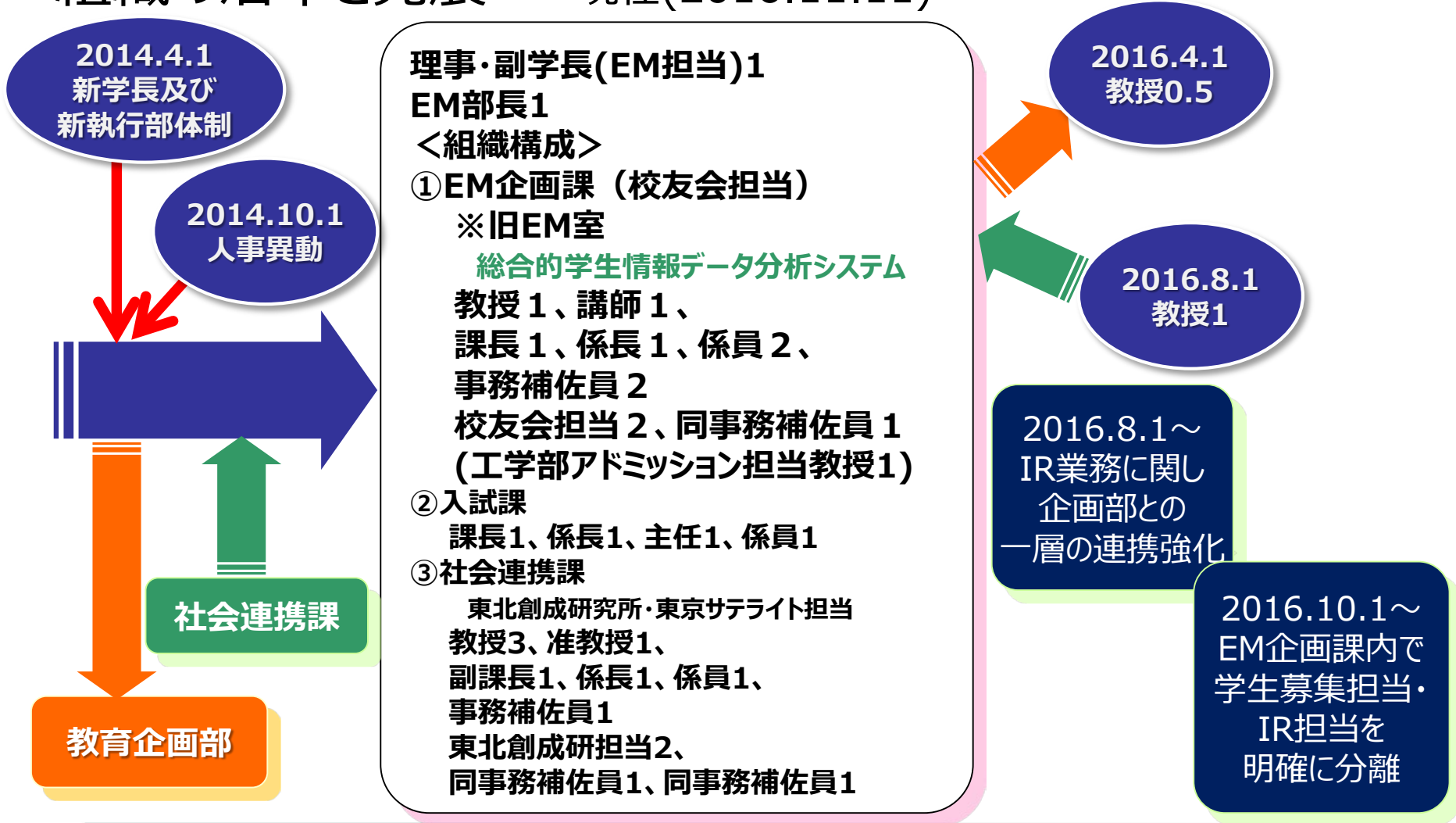
個人的な考えや憶測をベースに主張し合うのではなく
データやFACTも重視し、**議論する**組織文化を醸成する

組織の沿革と発展

設置(2006.7.1)～2014.3.31～



組織の沿革と発展 ～現在(2016.11.11)～



2. 総合的學生情報分析システムの概要

～構想の概要～

■平成22～24、平成24～27年度概算要求事業

学生の大学への期待、満足度、成長の自覚、目標達成感等を向上させることを中心においた教育改革マネジメント・サイクルの実現

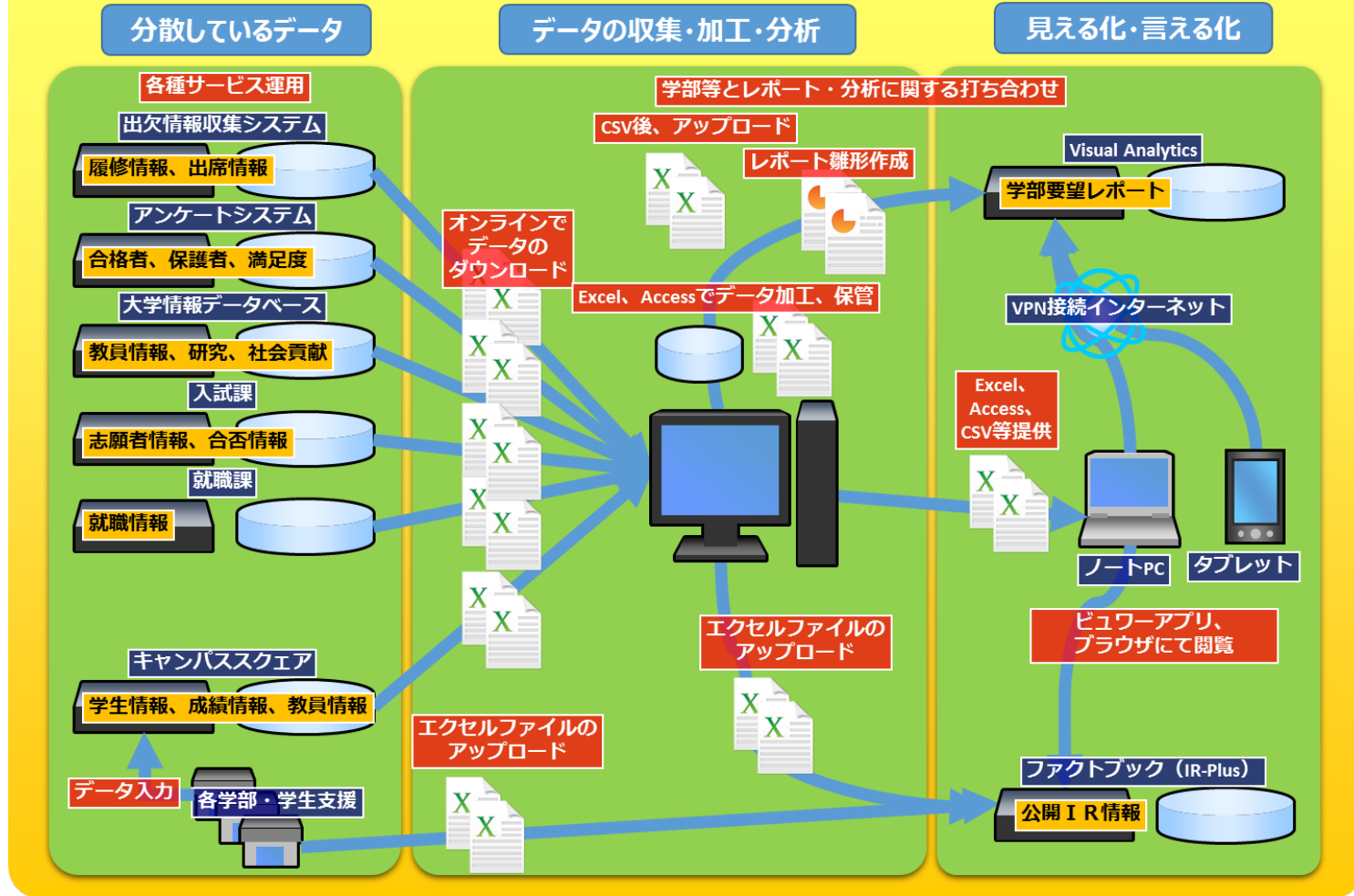
総合的學生情報データ分析システム

EM部 及び

総合的學生情報データ分析システム・ワーキンググループによる分析



IRシステム構成図



学内に散在する各種データをIR業務で有効活用するため、部局や部署の壁を越えて「**大学のもの**」として使うため、以下の規程を策定。

国立大学法人山形大学IR情報データベースに係る情報保護管理規程（H18.4月制定、H27.3月までに計6回改正）

IRシステムに集約するデータを保有または管理している部署を明確化し、収集するデータの範囲や収集方法等を明記。

URL: <http://www.yamagata-u.ac.jp/reiki/new/act/frame/frame110000126.htm>

国立大学法人山形大学IRシステムマネジメント規程（H26.9月制定、H27.3月改正）

IRシステムの運用に係る学長、理事、部局長等の責任を明確化し、情報提供及び活用に向けて協力することを明記。

URL: <http://www.yamagata-u.ac.jp/reiki/new/act/frame/frame110001750.htm>

1. 総合的學生情報分析システムの到達点 ～山形大学EM部の「見える化」「言える化」ツール～

8

山形大学EMIRに関する「見える化」「言える化」ツール



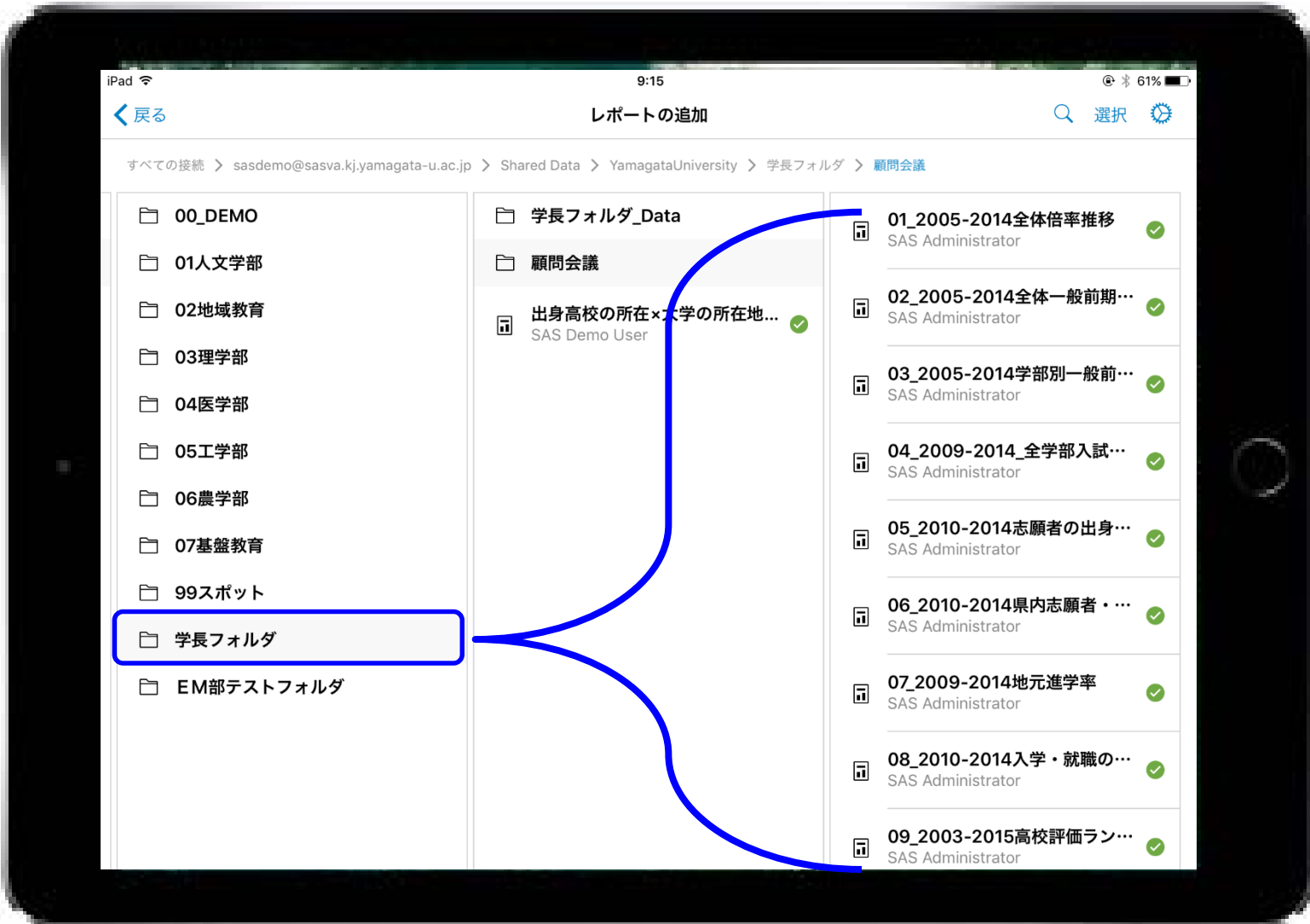
特徴：タブレットでの極めてスムーズな操作性と
パワフルで美しいビジュアル

「探索」モードでは、多変量解析等の統計手法も実装

主たる用途：学部等からの要望への素早い情報提供と情報共有
「BIツール」としての利活用

効果：情報共有と議論の活性化、「言える化」の実現

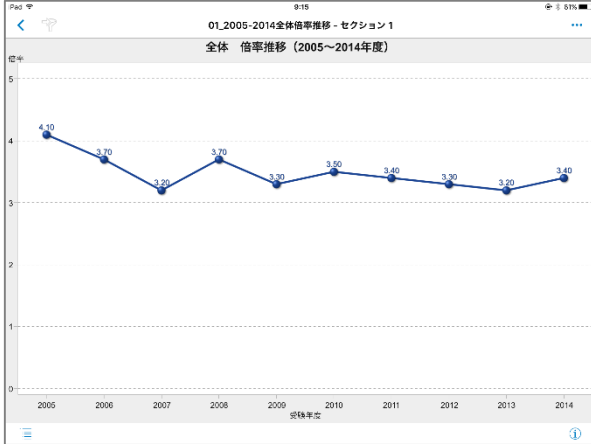
3. EMIRの実践事例 ～SAS VA の活用～



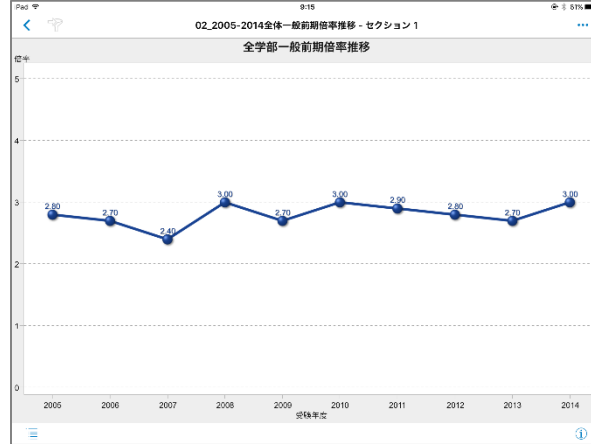
3. EMIRの活用事例 10

～SAS VA の活用:学長～

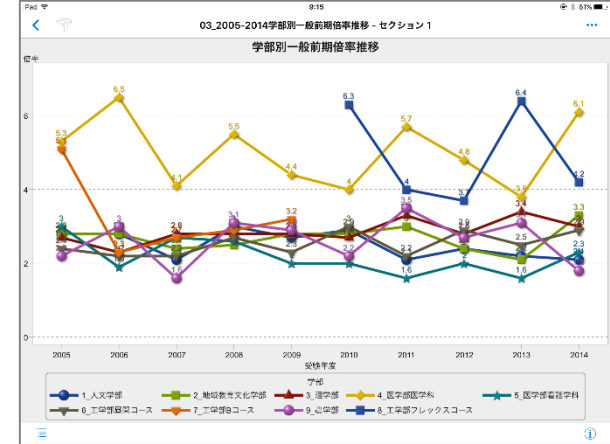
志願倍率



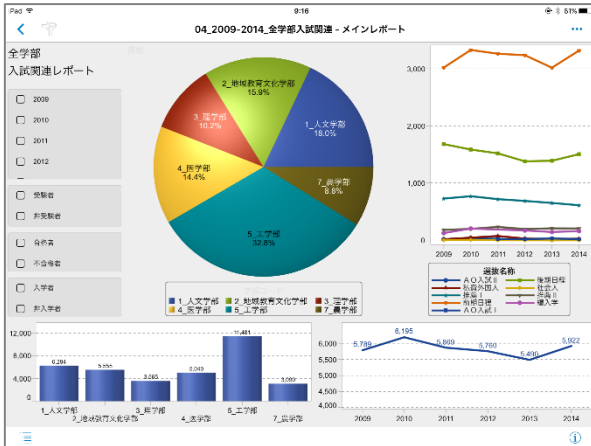
一般前期志願倍率



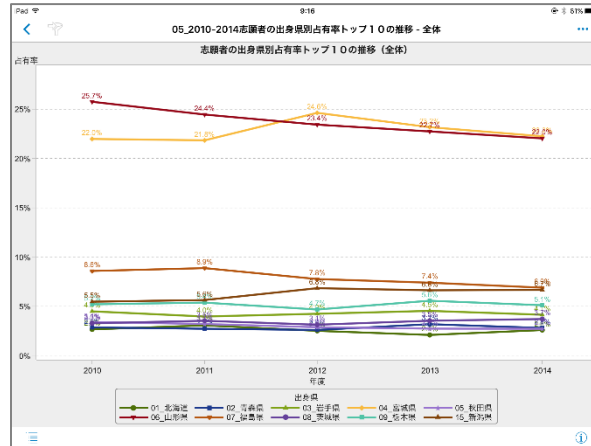
学部別一般前期志願倍率



学部別の入試レポート



志願者の出身県別占有率



県内志願者・入学者推移



投影のみ

投影のみ

x

IR = 意思決定の支援

重要なことは執行部の意思決定に寄与できるか

データ分析結果は、未来を見通し改善策まで提案しない

「共通言語(データ)」は
人を会話(議論)に誘う

関与する関係者の「言える化」

コミュニケーションの促進

意思決定までの議論の活性化

現場が知りたがっているのは、分析結果ではなく、
効果ある改善策 ⇒ そのためのヒント、自らのアイデアの確証…

誰にとっての「見える化」「言える化」なのか？

IR担当者

統計解析による「分かる化」

専門性を駆使して「言う化」

システムによる「見せる化」



現場の教職員

システムを「見せられる化」

IR担当者の説明の「聞ける化」

「言っていることはわかるけど、やや不満化」

「なんとなく納得いかない化」

「結局やらされているの化」

大切なことは現場教職員が改革・改善を実現できるかどうか

誰にとっての「見える化」「言える化」なのか？

IR担当者

統計解析による「分かる化」

専門性と現場の経験とを
「合わせる化」

「見せる化」から「共に見える化」

現場の教職員

システムによる「見える化」

「見える化」による「言える化」

「言える化」から「語り合う化」



「なるほど、腑に落ちた！」

「であれば、こうすれば良いのでは！」

「なるほど。よし、では共に
やってみよう！」

現場の改善・改革に寄与できる分析や効果検証の推進

【参考文献】

1. 浅野茂「エンrollment・マネジメントとICT活用—山形大学における「学生を知りぬく」ための取組—」IDE大学協会, IDE現代の高等教育No.585, pp.39-45, 2016年11月.
2. 浅野茂「第7章 エンrollment・マネジメント」, 小林雅之・山田礼子(編)『大学のIR: 意思決定支援のための情報収集と分析』慶應義塾大学出版会株式会社, pp.115-129, 2016年4月.
3. 福島真司「『総合的學生情報データ分析システム』の構築 山形大学におけるエンrollment・マネジメントとインスティテューショナル・リサーチ」科学技術振興機構(JST), 情報管理 Vol.58(1), pp.2-11, 2015年4月.

【ホームページ】

URL: <https://ir.yamagata-u.ac.jp/> キーワード 山形大学 OIRE

山形大学 Yamagata University

次世代形成・評価開発機構

OIRE Yamagata University

OFFICE OF INSTITUTIONAL RESEARCH & EFFECTIVENESS

APプロジェクトについて

Events

Reports & Presentations

Staff

APキックオフシンポジウム及び第10回EMIR勉強会「直接評価による学修成果の可視化と質保証強化への挑戦」のブレイズン資料を、このページで2016年11月11日(金)から順次公開してきますので、どうぞ宜しくお願い致します。

新着情報	
2016年11月8日	NEW! 「スタッフ」を公開しました。
2016年11月8日	NEW! 「Reports & Presentations」を公開しました。
2016年11月2日	「APキックオフシンポジウム及び第10回EMIR勉強会「直接評価による学修成果の可視化と質保